

中には日本語を話す人もあり、私は常に親切なサービスを受けたということが出来る。又人的豊富さは、開館時間を利用者のために設定するという事を可能にしていた。Education and Psychology Library の場合、開館時間は月曜から木曜は午前8時から午後11時、金曜は午前8時から午後5時、土曜は午前9時から午後5時、日曜は午後1時から午後9時となっていた。これは現在の日本の大学図書館では考えられないことである。

その他、必要な項目についての文献はコンピューターを通じて即座に打ち出されてくるし、カリフォルニア大学にない文献については、直ちに他

の大学の図書館や一般の図書館に照会して、それを取り寄せてくれる等のサービスが心に残っている。私は利用しなかったが、Research Libraryに申しこんでおけば、多数の美術品、フランクリン自筆の自伝、ゲーテンベルヒ印刷機による最初の聖書、様々な庭園で有名なハンチントン・ライブラリーへも、大学の自動車で送迎してくれる等のサービスがなされていた。

図書館に関しての思い出、少々うらやましい思いをもって帰国したというのが、いつわりのない感想である。

フランス社会思想史展について

＜昨年11月8日より10日まで、附属図書館陳列室において、本学人文科学研究所の協力により、標記展示会が開催されたが、この機会に今回の「フランス社会思想史展」について、その趣旨の説明を人文科学研究所にお願いした。＞

本学では各部局、各研究室において社会思想史の研究が進められているが、それらのうち人文科学研究所では、西洋部を中心として、18、19世紀のフランス社会思想についての共同研究が約30年近く実施されてきた。この共同研究は本学附属図書館をはじめ、各部局所蔵の多くの文献資料を利用しつつ行われたが、とくに附属図書館所蔵の

「フランス百科全書」、「サンシモン、フーリエ関係文献」、文学部所蔵の「ルソー全集」、「フランス革命文献」、経済学部所蔵の「プルードン全集」などの存在は、研究遂行上きわめて貴重なものであった。

今回の展示は、この共同研究に関連した文献の一端を示すとともに、共同研究の推移を回顧することを目的とした。

桑原武夫教授、つづいて河野健二教授の主宰するこの共同研究は現在も進行中であり、近く第二帝政期に関する研究報告が刊行される予定である。

人文科学研究所

プリンストン大学出版部寄託図書目録 第15回（1973 後期）

前回＜1975年Vol.12, No.1 静脩参照＞にひきつづき、1973年後期にプリンストン大学出版部から、寄託された図書を紹介します。利用を

希望される方は、書名の最後の()内の記号＜請求記号＞で、閲覧貸付掛＜2階カウンター＞へ請求してください。